



TITLE:

經濟漫録(一)

AUTHOR(S):

瀧本, 誠一

CITATION:

瀧本, 誠一. 經濟漫録(一). 經濟論叢 1916, 3(5): 777-780

ISSUE DATE:

1916-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127105>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號五第 卷三第

行發日一月一十年五正大

論說

節用論

田島 錦治

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(二)

神戸 正雄

でがゐるひゆゝの經濟學說(六)

福田 德三

『ころに』の意義ニ就キテ

山本美越乃

課稅ト獨占價格(三、完)

高田 保馬

代表紙幣ト獨立紙幣(二)

作田 莊一

戰後ノ人口増加政策(三、完)

米田 庄太郎

米券倉庫ヲ論ス(二)

河田 嗣郎

雜錄

公營建物ニ關スル美濃部、織田、松本三博士ノ(二)
所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ

福田 德三

金紙ノ開キト物價騰貴トノ關係

河上 肇

米國ニ於ケル地方財政審査所ノ發達

神戸 正雄

富山縣ノ翁媼調査

財部 靜治

經濟漫錄(二)

瀧本 誠一

經濟漫錄 (一)

龍本誠一

(一) 經濟學ト云フ文字 此ノ文字ノ起原ハ古キコトニテ、紀元前ニ於テ、希臘ノ學者ナドガ、往往用ヒタルコトアレドモ、ソレハ皆家事經濟若クハ政治學ノコトデアツテ、何レモ今日吾人ノ所謂經濟學ニアラザルコト、論ヲ待タナイノデアル、千六百年代ニ至リ、ろろど、ペーこんガ其ノ著書中ニ *Economia* ナル文字ヲ使用シタレドモ、是レモ亦家事經濟ノ意義ニ過ギザリシガ、稍々後レテ、千六百十五年(我元和元年)ニ佛國人もんくれいちん *Montchretien* ガばうだん *Beain* ノ *République* ヲ圖寫シテ、己ノ著書トナシ、之ニ *Traite de l'Economie Politique* ノ題名ヲ付シタノデアアル、コレガ近世ノ意義ニ於テ經濟學ト云フ書名ノ現ハレタル權輿デアアル

然ルニ我日本及支那ニ於テハ、近世マテ學問ト技術トノ區別明カナラザリシカハ、經濟ト云フ熟語ハ、古クヨリ傳ハリ來レドモ、或ハ經濟學

ト云ヒ、或ハ經濟之術ト稱シ、又或ハ經濟道ナドト呼來リテ、一向明確ノ意義ヲ有セザリシカドモ、兎ニ角此ノ熟語ノ由來ハ、頗フル古キコトデアアル、新井白石ガ安積澹泊齋ニ答ヘタル書中ニ「經濟ノ二字出所ノ事、仰せの如くあけくれ、筆にもつけ、口にも申すことにて、たしかに、これぞ出所と申す事、覺へず候」云云(白石手簡)トアレバ、流石博識ノ白石スラ、其ノ出所ハ知ラナカツタモノト見ユ、然レドモ儒者ノ所謂經濟ハ、我々が云フ所ノ經濟ニアラズシテ、矢張希臘ノ學者ノ如ク純乎タル政治ノ術、即チ治國平天下ノ術ヲ目シテ經濟ト稱シタルニ外ナラナイノデアアル、弘化嘉永ノ頃、京都ノ儒醫新宮涼庭ハ「破家ノツツクリ話」ト題スル政書ヲ著ハシテ、政治篇ト經濟篇トノ區別ヲ立テタルハ、聊カ注目ノ價值アルカ如クナレドモ、其内容ヲ見レバ矢張り混同ヲ免カレザルハ、要スル所當時ノ學者ニハ、今日ノ如キ經濟思想ハ、殆ンド皆無デアツタコトヲ證明スルモノデアアル、然レトモ俗間ニ於テハ經濟ノ熟語ハ單ニ費用節約又

ハ家政ノ遺線ヲ意味シタルモノデアツテ、學俗兩樣違ツタ意義ニ使用セラレテ居ツタ様ニ思ハルルノデアル、故ニ明治初年ノ英學者ガ英語ノ Political Economy ヲ經濟學ト譯シタルハ、當時學俗兩樣ニ踰リテ、意識ノ異ナリタル文字ヲ、其ノ儘ニ採用シタルモノデアル、原來其ノ本家本元ニ於テスラ研究ノ目的及範圍ノ明確ナラサル學科ニ、此ノ譯字ヲ當ハメタルハ、不即不離、中ルカ如ク中ラザルガ如ク、寧ロ甚タ妙ナリト云フベシ

(二)商人誦詐 古昔ハ民風純朴ニシテ、商取引ナド、總テ貞實ニ行ハレシ様ニ信スルモノアレトモ、中々ソウデモ無ツタモノト見ヘ、永田善齋ノ膾餘雜錄(承應二年板)ヲ見レバ、米商ガ白米ニ水ヲ加シテ、其ノ量目ヲ増シ、塩屋ガ塩ニ灰ヲ混入シ、漆ヲ賣ル者ガ和スルニ油ヲ以テシ、藥舖ガ名實相稱ハザル不正ノ藥品ヲ賣リタルナトノ事ハ、古ヨリ隨分盛ニ行ハレ居タルコトヲ記シテ、大ニ嘆息ノ意ヲ表シ居ルモ、斯ハ惡風ハ、今古體シタ變化ナキコトト知ラレタリ、米

商ノ姦計ハ、宋書ノ孔琳傳ニモ見ユ
三經濟字書 寬政年間弘前藩ノ儒者ニ、伴建尹、字ハ元尹、通稱ハ才助ト云フ者アリ、經濟ノ學ニ長ジ、藩ノ度支職トナリ、財賦ノ事ヲ掌ル、藩主、國ノ富強ヲ圖リ、謀畫スル所アル毎ニ、必ス建尹ニ諮問ス、建尹乃チ故事ヲ引キ、可否ヲ論スレバ、事立コロニ決ス、時人因テ彼ヲ目シテ經濟字書ト云フ(日本教育史資料)

(四)農學ノ開祖 宮崎安貞ハ元祿年間ノ人ニテ、我カ國農學ノ開祖ト稱セラレ居ルモ、其ノ實安貞ノ農業全書ト同シ様ナ大著述ヲナシテ、農政ノ要旨ヲ明ニシタルモノハ、余カ鄉里伊豫字和郡ノ人デ、松浦傳次貞家ト云フ者デアル、貞家ハ永祿年中(宮崎安貞ヨリ凡百二十三年前) 同郡立間ノ城主土居式部大輔清良ノ諮問ニ應シテ、國事ニ關スル意見書十五卷(總テ親民鑑ト題シタルモノナラン)ヲ筆シタルデアルガ、其ノ中ノ四卷即チ月集ト稱スル部分ハ、最モ詳カニ土地耕作ノ事ヲ論シタルモノデアル、余カ收藏本ハ、一冊ハ單ニ親民鑑月集トアリ、植ヘ物ニ關スル年中

行事ノ如キモノヲ記シ、他ノ三冊ハ各々親民鑑
月集ト題スル名目ノ下ニ、土地辨談、畊作事記、
畊作問答ノ別稱ヲ記シタモノデアル、余ハ未ダ
此ノ意見書ノ全部十五卷（何レノ圖書館ニモ藏本アル
ヲ聞カス）ヲ閱讀セザルヲ以テ、詳細ニ之ヲ評ス
ルコト能ハサルモ、兎ニ角我カ國ニ於ケル農學
ノ開祖ハ、安貞ニアラズシテ、貞家ナルコトハ
明デアル、貞家ハ後入道シテ宗案ト稱セリ、其
ノ略傳ハ織田完之ノ大日本農功傳及大日本人名
辭書等ニアリ

(五) 商ノ字義 聲律ヨリ云ヘバ「商ハ秋ニ屬ス又
商賈ノ義アリ……和訓モ亦シカリ奇ナルコト
ナリ（岡田延之ノ義塾錄卷三）

(六) 盜人ノ律義 「牛の與たれ」ト云フ隨筆ハ、何
人ノ著作ナルヤ知ラザレドモ、書中往々奇警ノ
語アツテ面白シ、「古への盜人は今の君子よりは
律義なり、今の君子は暗がりの所が油斷ならぬ
なり」ナドト云ヒ、「古の盜人とは熊坂の類なり、
彼等は竊をする時は先きに松明を投込み置きて
暗き所で仕事をせず、又大將の長範は牛若丸に

切立られて遁去らんとしたるも、手下の者の討
るゝを見て、取て返へして共に討死したるは、
盜人ながら義あり勇あり、又情あることにて、
今ノ所謂君子が利益の爲めに朋友を突のけ、難
義の場所は眞先きに遁隠るゝなど熊坂より恐ろ
し」ト云ヘルガ如キ言多シ、一讀ノ價值アルモノ
デアル

(七) 財ヲ賤ムノ風習 朱子語類ニ財猶膩也近則汚
人ノ語アリ、儒者が財ヲ賤ムノ風習ハ、必スシ
モ朱子ニ起因スルニアラズ、ヅツト古代ヨリ傳
ハリ來ルコトナレドモ、朱子學者カ專ラ爲貧說
ヲ主張シタルハ全ク此等ノ語ヨリ起リシモノカ
(八) 經濟學者ハ奇怪ノ動物 經濟學上ノ重要問題
ハ、今日猶ホ悉ク未決ニ屬シ、斯學ノ大家諸先
生ハ、皆奮闘苦戰ノ中ニ、露營シテ居ルノ狀態
デアル、ラント「Unit」曰ク、經濟學者ハ右手ニ
攻撃ノ錚ヲ持シ、左手ニ誹謗ヲ防クノ楯ヲ執リ、
足ニ瘡癢ヲ蔽フノ脚當ヲナシ、頭ニ嘲笑ヲ避ケ
ルノ兜ヲ着スル、恐ルベキ奇怪ノ動物ナリト、
(Economic Science 八頁) 噴飯絶倒ニ堪ヘタル奇

評デアル

(九)顏回ノ資産 顏回ハ乞兒ノ類ニアラズ、其ノ貧ニ安スルト云フハ、慾心ナキノ謂デアル、孔子曾テ回ニ問フテ曰ク、家質居卑、胡不仕乎、對曰回有郭外之田五十畝、足以給饘粥、郭内之田十畝、足以爲絲麻、鼓琴足以自娛、所學于夫子者足以自樂、回不願仕也云云(陋巷志)安積良齋ガ、顏回ハ中人以上ノ資産家ナリト云ヘルハ(閑話)此ノ事實ヲ云フノデアラフ

(十)程伊川水中ノ錢 青砥左衛門ガ滑川撈錢ノ事ハ、何人モ知ツテ居ル所ナルガ、伊川文集ヲ見レバ、程伊川或ル時、門人數名ヲ伴ヒテ、雍華ノ間ヲ行ケルニ、馬鞍ニ纏ヘル千錢、何時ノ間ニカ失セニケリ、從僕曰ク晨裝ノ時ニ亡ヘルニアラズ、顧フニ必ス水ヲ渡リシ時ニ失墜シタルナルベシト、伊川之ヲ聞キ、大ニ嘆シテ曰ク、千錢寔ニ惜ムベシト、一人ノ門弟聲ニ應シテ曰ク、千錢ハ輕微ナリ、何ソ意ニスルニ足ント、又一人ハ曰ク、水中囊中以テ同一視スベシト、伊川曰ク、吾レ夫ノ有用ノモノ、水

復タ其用ヲ爲サザルヲ嘆スルノミト、何國ニモ似寄ノ事實アルハ、怪シムニ足ラズ

(十一)紙幣ノ濫觴 太宰春臺ノ經濟錄ニ、寶鈔即チ紙幣ハ我國古昔ニナシ、元祿年間諸侯ノ中ニ之ヲ造リタルヲ濫觴トスルガ如ク記シアルモ、是レハ春臺ノ誤デアツテ、我カ國紙幣ノ起原ハ遠キ後醍醐帝時代ノコトデアル、當時南朝ニ於テ、財政困難ノ餘リ、救治策トシテ、紙幣ヲ發行スルニ至リシ事ハ、三宅觀瀾ノ中興鑑言ニ詳カナリ、支那ニテハ漢ノ虎皮ガ楮幣ノ原始ナリト、章潢ノ山堂考索ニ見ユ

(十二)贅澤品ノ課稅 贅澤品ニ重稅ヲ課スルハ、太古ヨリ財政方針テアツテ、禮記王制ハ全ク此ノ方針ヲ取ツタノデアル、我カ國德川時代ニ、漆林ノ稅ヲ重クシタルモ亦王制ノ意ニ法リタルモノデアル(樂翁公ノ國本論)